

## まえがき

メキシコでは2018年7月の大統領選挙で、ラテンアメリカにおいては周回遅れの「左派」政権が誕生した。一方、米国でのトランプ政権誕生により、NAFTA発足以来、四半世紀続いたメキシコ・米国の蜜月時代は終わりを迎えるようとしている。メキシコは、激動の時代のとば口に立つように見うけられる。

本書でわれわれがめざしたのは、政治・社会・経済の論理がダイナミックにせめぎ合うメキシコという国の姿を示すことであった。せめぎ合いの特徴を示すことで、21世紀のメキシコを理解するための視座を提供することができる考えた。そしてそのような視座をもつことで、歴史的な変化の意義をより深く理解することが可能になると考えた。メキシコの大統領選挙も、米国とのNAFTA改定交渉の妥結も、本書脱稿後の出来事であった。そのため本書では「左派」政権誕生や米墨蜜月時代の終わりについては分析の俎上にのせられていない。しかし本書が示した視座に立つことで、これらの画期的大事件の意義を考え、今後を展望する際の手掛かりを得ることができると期待している。われわれのねらいが果たされているのか、その判断は読者に委ねたい。

本書はアジア経済研究所が2016年度から2017年度にかけて実施した「21世紀のメキシコ——近代化する経済、分極化する社会」研究会の成果である。2017年3月には中間成果として研究会と同名のタイトルで調査研究報告書を作成している。研究所のウェブページに公開されているので、併せてご参照いただければ幸いである。なお研究会では東京外国語大学の田島陽一教授、メキシコ自治工科大学の手島健介教授（当時）、編集・出版アドバイザーの勝康裕氏にご参加いただき、われわれの研究に対し貴重なアドバイスをいただく機会をもった。この場を借りてご協力に深く感謝申し上げたい。

2018年12月

編者